

SilkCentral® Issue Manager 2010 R2

データベース モデル

Borland®
(A MICRO FOCUS COMPANY)

**MICRO
FOCUS®**
Leading the Evolution™

Borland Software Corporation
4 Hutton Centre Dr., Suite 900
Santa Ana, CA 92707

Copyright 2010 Micro Focus (IP) Limited. All Rights Reserved. Issue Manager には、Borland Software Corporation の派生著作物が含まれています。Copyright 2004 - 2010 Borland Software Corporation (a Micro Focus company).

MICRO FOCUS、Micro Focus のロゴなどは、Micro Focus (IP) Limited およびその関連会社の米国、英国およびその他の国における商標または登録商標です。

BORLAND、Borland のロゴ、および SilkCentral Test Manager は、Borland Software Corporation およびその関連会社の米国、英国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他のブランドまたは製品名は、その著作権所有者の商標または登録商標です。

2010

目次

はじめに	1
概要	1
第1章	
データベース スキーマ モデル	3
概要	3
問題	4
アーカイブされた問題	5
ユーザーとグループのデータ	6
GUI 設定	7
受信箱	9
ワークフロールーティング	10

はじめに

本ドキュメント について

このガイドでは、Borland SilkCentral® Issue Manager のデータベース スキーマの概要について説明します。

この章のセクション構成は以下のとおりです。

セクション	ページ
概要	1

概要

本ガイドでは、SilkCentral Issue Manager のデータベース スキーマについて説明します。レポートの作成や API を通じた SilkCentral Issue Manager へのアクセスの際にユーザーの役に立つよう作成されたものです。

はじめに
概要

1

データベース スキーマ モデル

はじめに

このガイドでは、SilkCentral Issue Manager のデータベース スキーマの概要について説明します。

この章の内容

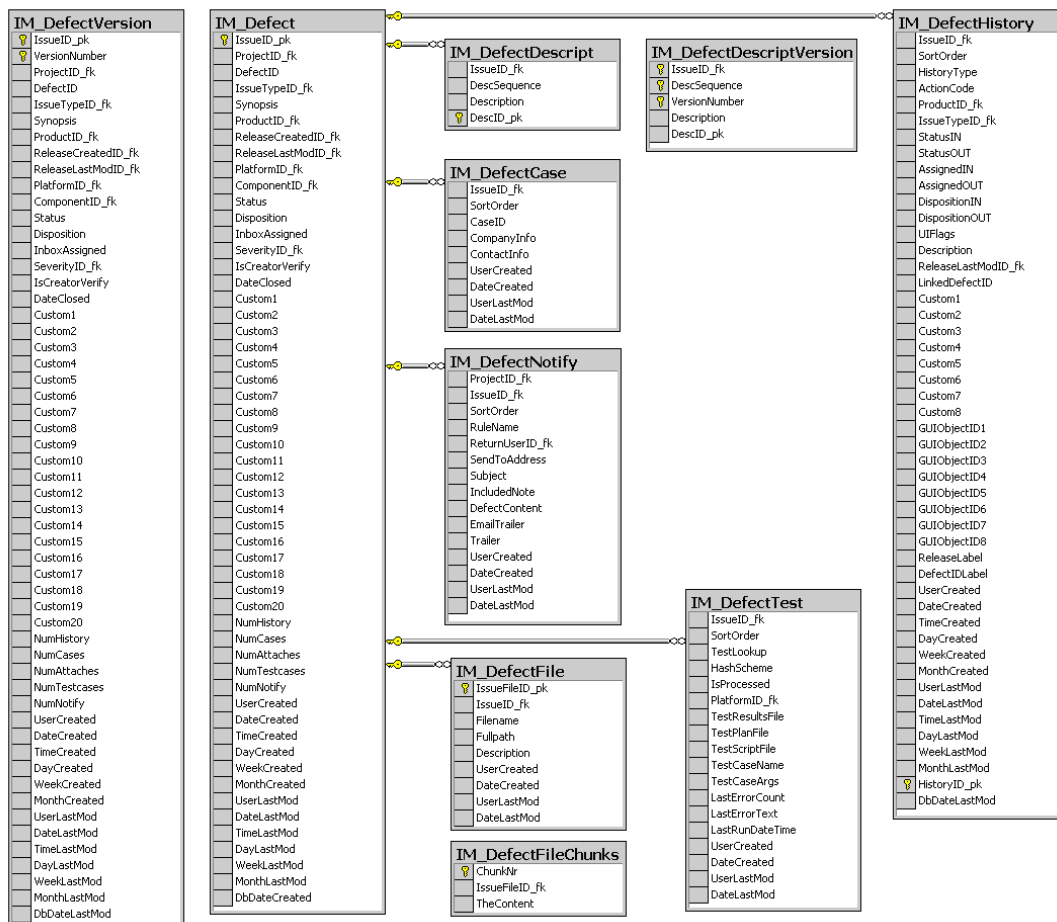
この章のセクション構成は以下のとおりです。

セクション	ページ
概要	3
問題	4
アーカイブされた問題	5
ユーザーとグループのデータ	6
GUI 設定	7
受信箱	9
ワークフロー ルーティング	10

概要

本ガイドでは、SilkCentral Issue Manager のデータベース スキーマについて説明します。レポートの作成や API を通じた SilkCentral Issue Manager へのアクセスに役立ちます。

問題



IM_Defect : 各問題の基本テーブルです。ここには以下のデータが含まれています。

- 問題の主なフィールド
- カスタム タブのフィールド (列 : Custom1 ~ Custom20)
- 現在のステータスと各問題の割り当て先の受信箱。問題の処理が終了した場合 (任意の最終状態) や問題が受信箱に割り当てられていない場合には、受信箱列 (InboxAssigned) は NULL になります。

- 作成日時と変更日時（さまざまなクエリ タイプに備えて複数の形式で格納）。*DbDateCreated* はエントリが DB サーバーで作成された日時です。このフィールドは内部用で、*DateCreated* よりも頻繁に更新される可能性があります。

IM_DefectVersion : *IM_Defect* テーブルの各バージョン（コピー）を保持します。このテーブルではバージョン管理（内部データ ウェアハウス用に必要）が可能です。

IM_DefectHistory : 問題に対して実行されるすべてのアクションの履歴が格納されています。各行はある 1 つの問題のある 1 回の変更を表し、" 変更前 " のステータス (*StatusIN*)、" 変更後 " のステータス (*StatusOUT*)、アクション、問題が最初に割り当てられた受信箱 (*AssignedIN*)、問題が割り当て直された受信箱 (*AssignedOUT*)、処置、アクションの注釈、リリース情報、リンクされている欠陥 ID、定義可能なカスタム フィールドの値、作成日時（アクションの実行時）などの情報から成ります。

IM_DefectDescript : 問題の説明が格納されています。説明文は、2,000 文字から成るシーケンスに分割されます。

IM_DefectDescriptVersion : *IM_DefectDescript* テーブルの各バージョン（コピー）を保持します。このテーブルではバージョン管理（内部データ ウェアハウス用に必要）が可能です。

IM_DefectCase : [顧客] タブに入力されたケース データが格納されています。

IM_DefectNotify : 通知トリガが格納されています。

- *IssueID_fk* <> *NULL* の場合は、トリガが特定の問題に割り当てられていることを意味します。
- *IssueID_fk* = *NULL* の場合は、トリガがプロジェクト内のすべての問題に有効であること（システム全体のトリガ）を意味します。

IM_DefectFile : 添付ファイルのデータが格納されています。Issue Manager ファイルを入力した場合、*Fullpath* 列は空になり、ファイルは *IM_DefectFileChunks* テーブルに格納されます。Issue Manager 3.3 データベースをインポートした場合は、インポート時に添付ファイルにアクセスできなければ、*Fullpath* 列の値は以前のままです。

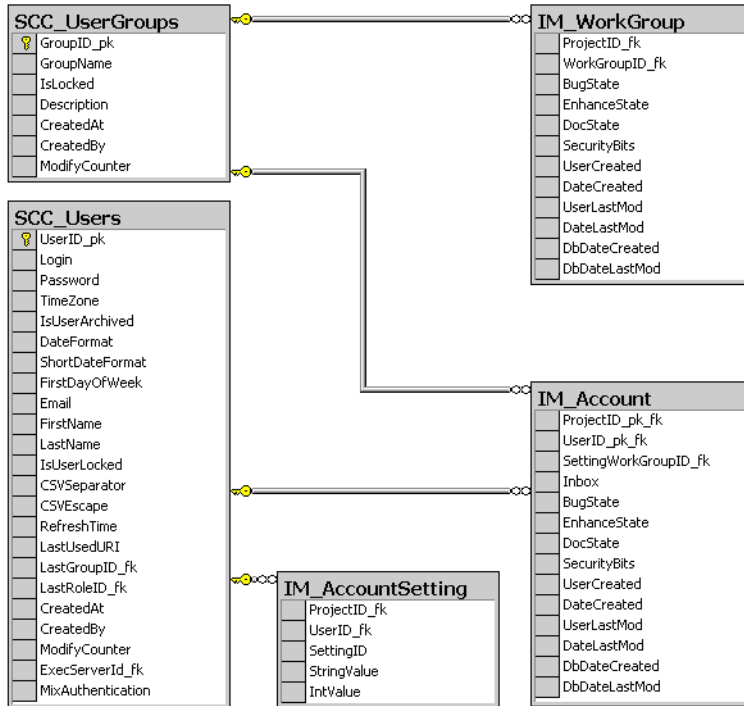
IM_DefectFileChunks : 添付ファイルの内容

IM_DefectTest : [テストケース] タブで添付されたテストケースに関するデータが格納されています。

アーカイブされた問題

アーカイブされた問題のテーブルは、前のセクション「問題」で説明したテーブルのコピーです。問題がアーカイブされると、*IM_Defect...* テーブルから *IM_Archive...* テーブルにデータがコピーされます。

ユーザーとグループのデータ



SCC_UserGroups : 利用可能なユーザー グループが含まれます。

SCC_Users : SilkCentral を使用するためにセットアップされた個別ユーザーに関するデータが含まれます。

IM_Account : 特定の Issue Manager プロジェクトに割り当てられているユーザーの Issue Manager 固有データが格納されています。SettingWorkGroupID_fk は、IM_WorkGroup に格納されているグループの ID です。ユーザーに値が指定されていない場合には、このテーブルから初期状態のデフォルト値が取り出されます。

IM_AccountSetting : ユーザーや設定 ([常に自分の問題を検証する] や [システム全体のトリガを各問題の [通知] タブに表示する] など) の最新入力値に関するデータが格納されています。

IM_WorkGroup : 特定の Issue Manager プロジェクトに割り当てられているグループのデフォルトの初期状態が格納されています。

メモ : DbDateCreated と DbDateLastMod フィールドにはエンTRIES が DB サーバーで作成や変更された日時が含まれます。これらのフィールドは内部用で、DateCreated や DateLastMod よりも頻繁に更新される可能性があります。

GUI 設定

Issue Manager には、プロジェクトごとに GUI（ラベル、カスタム フィールド、アクセス許可）を設定するオプションがいくつか用意されています。これらの設定は以下のテーブルに格納されます。

IM_CustomGui	
ProjectID_fk	この設定が適用されるプロジェクト。
GUIObjectID	GUI に含まれているオブジェクトの ID。200 ~ 219 はカスタム タブ内のフィールドです。
GUICaption	フィールドのラベル。
GUIType	1 = チェック ボックス 2 = テキスト フィールド 3 = ドロップダウン 4 = タブ ラベル
ValueListID_fk	オブジェクトのタイプが "ドロップダウン" の場合、この ID は値に使用されるリストを指定します。
InsertRole	問題を入力するときのフィールドのモード。 2 = 省略可能 3 = 読み取り専用 4 = 必須
UpdateRole	問題を編集するときのフィールドのモード。 2 = 省略可能 3 = 読み取り専用 4 = 必須
CaseMapping	テキスト フィールド 値の格納方法を指定します。 0 = 入力どおり 1 = 大文字に変換 2 = 小文字に変換
UserCreated	このエントリを作成したユーザー。
DateCreated	エントリが作成された日時。
UserLastMod	エントリを最後に変更したユーザー。
DateLastMod	エントリが最後に変更された日時。

IM_CustomGui	
DbDateCreated	エントリが DB サーバーで作成された日時。このフィールドは内部用で、 <i>DateCreated</i> よりも頻繁に更新される可能性があります。
DbDateLastMod	エントリが DB サーバーで変更された日時。このフィールドは内部用で、 <i>DateLastMod</i> よりも頻繁に更新される可能性があります。

このテーブルには、特定のグループだけが特定のフィールドにアクセスできる場合に適用される設定が格納されています。このテーブルに GUI オブジェクトのエントリがない場合は、アクセスが特定のグループに制限されることはありません。

IM_CustomGuiPermission	
ProjectID_fk	このアクセス許可設定が適用されるプロジェクト。
GUIObjectID_fk	GUI に含まれているオブジェクトの ID。
PermissionType	許可タイプ。 1 = 挿入 2 = 更新
WorkGroupID_fk	このアクセス許可が付与されるグループの ID。

受信箱

IM Inbox : Issue Manager プロジェクトに存在する受信箱が格納されています。各受信箱は特定のグループに割り当てられます。

IM_CustomInbox	
このテーブルには、プロジェクトのユーザーの受信箱ビュー（表示される列、ソート、列見出し）に関する設定が格納されています。	
ProjectID_fk	このビューが割り当てられるプロジェクト。
UserID_fk	NULL : プロジェクトに受信箱のデフォルト ビューが適用されることを指定します。 特定のユーザー ID : ユーザーがカスタムビューの設定を行った場合
ColOrder	列の位置。
ColSorting	列のソート順序。選択肢は以下のとおり。 0 = なし 1 = 昇順 2 = 降順
ColLabel	表示される列見出し。
ColName	データベースにおける列の名前。
UserCreated	
DateCreated	
UserLastMod	
DateLastMod	

ワークフロー ルーティング

IM_Product : 特定のプロジェクトにおけるある製品のデフォルト ルーティング情報が格納されています。このルーティングは、*IM_RoutingLogic* テーブルのエントリを使って詳細化することができます。

問題の状態が変化すると、この情報を使用して、問題をどの受信箱に送るかが決定されます。新しいワークフロー状態の所有者に応じて、*QAInbox*、*DEVInbox*、*ENHInbox*、*DOCInbox* のいずれかの列に指定されている適切な受信箱に問題が送られます。

IM_RoutingLogic	
ProjectID_fk	このルーティングが指定されるプロジェクト。
ProductID_fk	このルーティングが指定される製品。
SortOrder	エントリの処理順序を指定します。最初に一致したエントリが、現在の問題のルーティングに採用されます。
DefectTypeGroup	SOFT = BUG および ENHANCEMENT DOC = DOC-ISSUE
ReleaseMatch	これらの列の少なくとも 1 つを指定する必要があります。 3 つの <i>MatchID_fk</i> 列は外部キーを指定します。それ以外の列には、 "Windows%" などのクエリ文字列を指定することができます。
PlatformMatch	
ComponentMatch	
ReleaseMatchID_fk	
PlatformMatchID_fk	
ComponentMatchID_fk	
QAInbox	新しいワークフロー状態の所有者に応じて、これらの列に指定されている受信箱に問題が送られます。
DEVInbox	
ENHInbox	
DOCInbox	
UserCreated	
DateCreated	
UserLastMod	
DateLastMod	

IM_WorkflowState : 問題の取り得る状態。各状態には所有者があり、それを使って、*IM_RoutingLogic* テーブルや *IM_Product* テーブルの受信箱のうちどれを使用するかが決定されます。

IM WorkflowAction : 特定の状態にある問題に対してユーザーが実行できるすべてのアクションが格納されています。これらのエントリは、アクション実行後の問題の状態、[アクション]ダイアログに表示されるフィールド、[履歴]エントリに追加されるアクションコード、アクションボタンラベル、およびツールチップを指定します。

IM WorkflowActionPermission : 特定のアクションを実行できるグループを指定します。

1 データベース スキーマ モデル ワークフロー ルーティング